

社会資本総合整備計画

JR茨木駅南地区における大規模工場跡地の
土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備
と交流・学習拠点の創出（第6回変更）

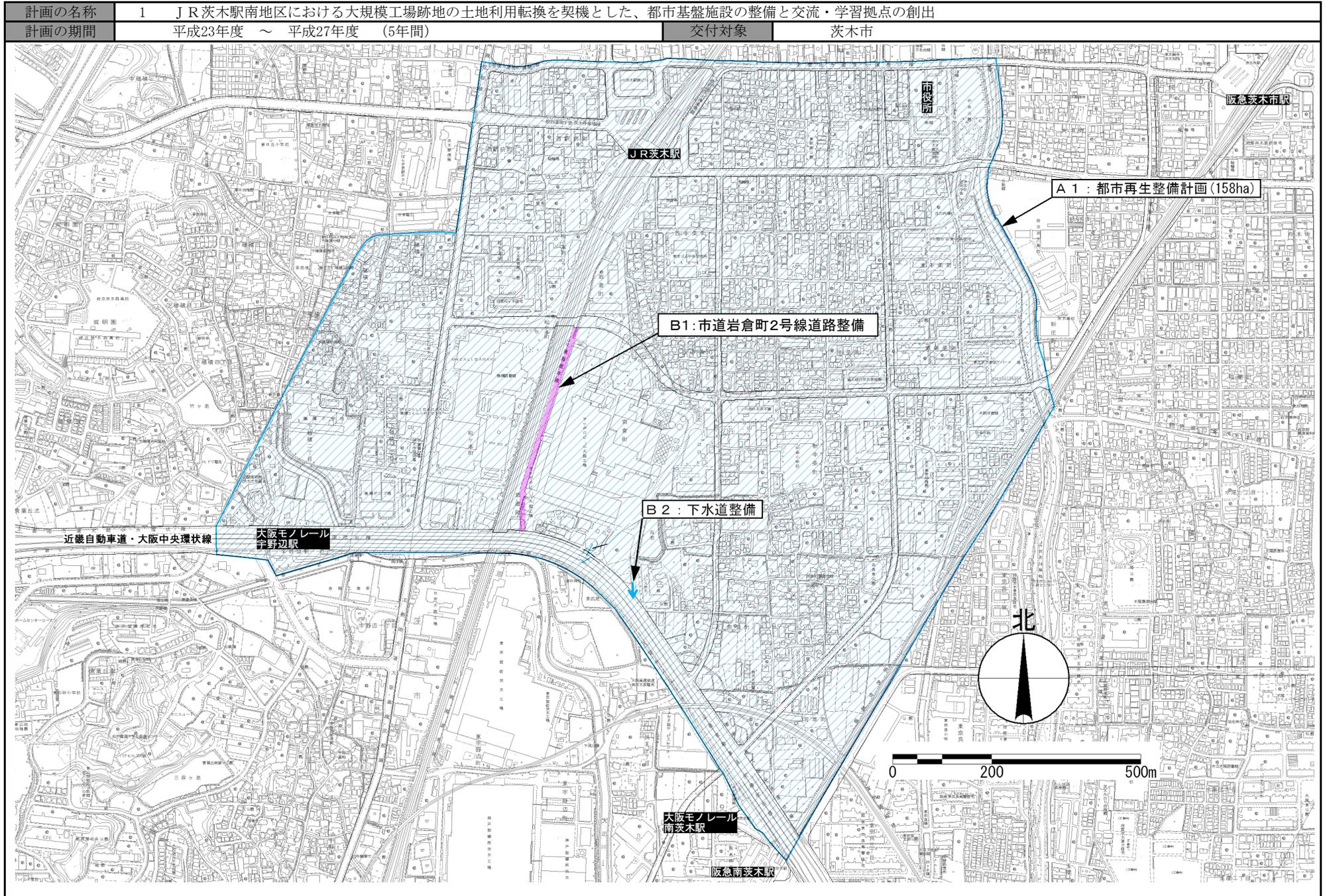
平成27年8月3日
大阪府茨木市

(参考様式2) 社会資本総合整備計画

平成27年8月3日

計画の名称	1 JR茨木駅南地区における大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出																																																																
計画の期間	平成23年度～平成27年度(5年間)				交付対象	茨木市																																																											
計画の目標	<p>JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅の交通結節点の機能強化、両駅間の安全で快適に回遊できる歩行者・自転車ネットワークの充実を図る。 災害時の一次避難地や避難路を確保し、地域の防災性の向上を図る。 大規模工場跡地の整備インパクトを活用した、交流と学習のまちづくり拠点の整備を推進する。</p>																																																																
計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> 駅及び駅周辺の施設整備、安全な歩行者ネットワークの整備により、JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅を利用する来訪者の交通便利性に対する満足度の向上をめざす。 防災公園及び避難路の整備により、避難圏域内住民の防災性の向上をめざす。 産官学民の連携による知的交流拠点の形成を目的とする施設を整備することで、都市機能の拡散防止と中心市街地の公共・公益サービス機能の維持・公共不動産の有効活用を図る。 																																																																
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値</th> <th>中間目標値</th> <th>最終目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(H23)</td> <td>(H25末)</td> <td>(H27末)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1. 交通便利性の満足度</td> <td>10.80%</td> <td>10.80%</td> <td>13.10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅の駅周辺における交通便利性の満足度についてアンケート調査を実施</td> <td></td> <td>(-)</td> <td>(20%増)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 防災機能の向上</td> <td>0.0㎡/人</td> <td>㎡/人</td> <td>2.0㎡/人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・避難圏域(半径500m)内一人当たりの防災公園の面積を算定</td> <td></td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 産官学民交流センターの利用者数</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>3,000人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・産官学民交流センターにおける年間の市民利用者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>全体事業費</td> <td>合計(A+B+C)</td> <td>6,140百万円</td> <td>A</td> <td>5,999百万円</td> <td>B</td> <td>141百万円</td> <td>C</td> <td>0百万円</td> <td>効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)</td> <td>0.00%</td> </tr> </tbody> </table>												定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値	中間目標値	最終目標値		(H23)	(H25末)	(H27末)		1. 交通便利性の満足度	10.80%	10.80%	13.10%		・JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅の駅周辺における交通便利性の満足度についてアンケート調査を実施		(-)	(20%増)		2. 防災機能の向上	0.0㎡/人	㎡/人	2.0㎡/人		・避難圏域(半径500m)内一人当たりの防災公園の面積を算定		(-)	(-)		3. 産官学民交流センターの利用者数	0人	0人	3,000人		・産官学民交流センターにおける年間の市民利用者数					全体事業費	合計(A+B+C)	6,140百万円	A	5,999百万円	B	141百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0.00%
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																																																													
	当初現況値	中間目標値	最終目標値																																																														
	(H23)	(H25末)	(H27末)																																																														
1. 交通便利性の満足度	10.80%	10.80%	13.10%																																																														
・JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅の駅周辺における交通便利性の満足度についてアンケート調査を実施		(-)	(20%増)																																																														
2. 防災機能の向上	0.0㎡/人	㎡/人	2.0㎡/人																																																														
・避難圏域(半径500m)内一人当たりの防災公園の面積を算定		(-)	(-)																																																														
3. 産官学民交流センターの利用者数	0人	0人	3,000人																																																														
・産官学民交流センターにおける年間の市民利用者数																																																																	
全体事業費	合計(A+B+C)	6,140百万円	A	5,999百万円	B	141百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0.00%																																																							
交付対象事業																																																																	
A1 都市再生整備計画事業																																																																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別	省略工種	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考																																																
1-A1	都市再生	一般	茨木市	直接	茨木市	-	-	JR茨木駅南地区都市再生整備計画事業(地方都市リノベーション事業)	地方都市リノベーション推進施設、道路、地域生活基盤施設、高次都市施設等 区域面積:158ha	茨木市	H23	H24	H25	H26	H27	5,999																																																	
											合計	5,999																																																					
B 関連社会資本整備事業																																																																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名	地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考																																																
1-B-1	道路	一般	茨木市	直接	茨木市	-	市道岩倉町2号線道路整備事業	延長:420m	茨木市							115																																																	
1-B-2	下水	一般	茨木市	直接	茨木市	-	下水道整備事業	延長:25m	茨木市							26																																																	
											合計	141																																																					
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考																																																	
1-B-1	区画道路整備により、駅南地域およびモノレール宇野辺駅とのネットワークの向上を図るとともに、地区内の防災性の向上を図る。																																																																
1-B-2	都市再生整備計画事業における大規模土地利用(大学キャンパス整備)における下水処理能力の向上を図る。																																																																
C 効果促進事業																																																																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考																																																
											H23	H24	H25	H26	H27																																																		
											合計																																																						
番号																備考																																																	
1-C-1																																																																	

(参考図面) 市街地整備



都市再生整備計画

いばらきえきみなみ
JR茨木駅南地区
(地方都市リノベーション事業)

おおさかふ いばらきし
大阪府 茨木市

平成27年8月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	大阪府	市町村名	茨木市	地区名	JR茨木駅南地区（地方都市リノベーション事業）	面積	158	ha
-------	-----	------	-----	-----	-------------------------	----	-----	----

計画期間	平成 23	年度 ~	平成 27	年度	交付期間	平成 23	年度 ~	平成 27	年度
------	-------	------	-------	----	------	-------	------	-------	----

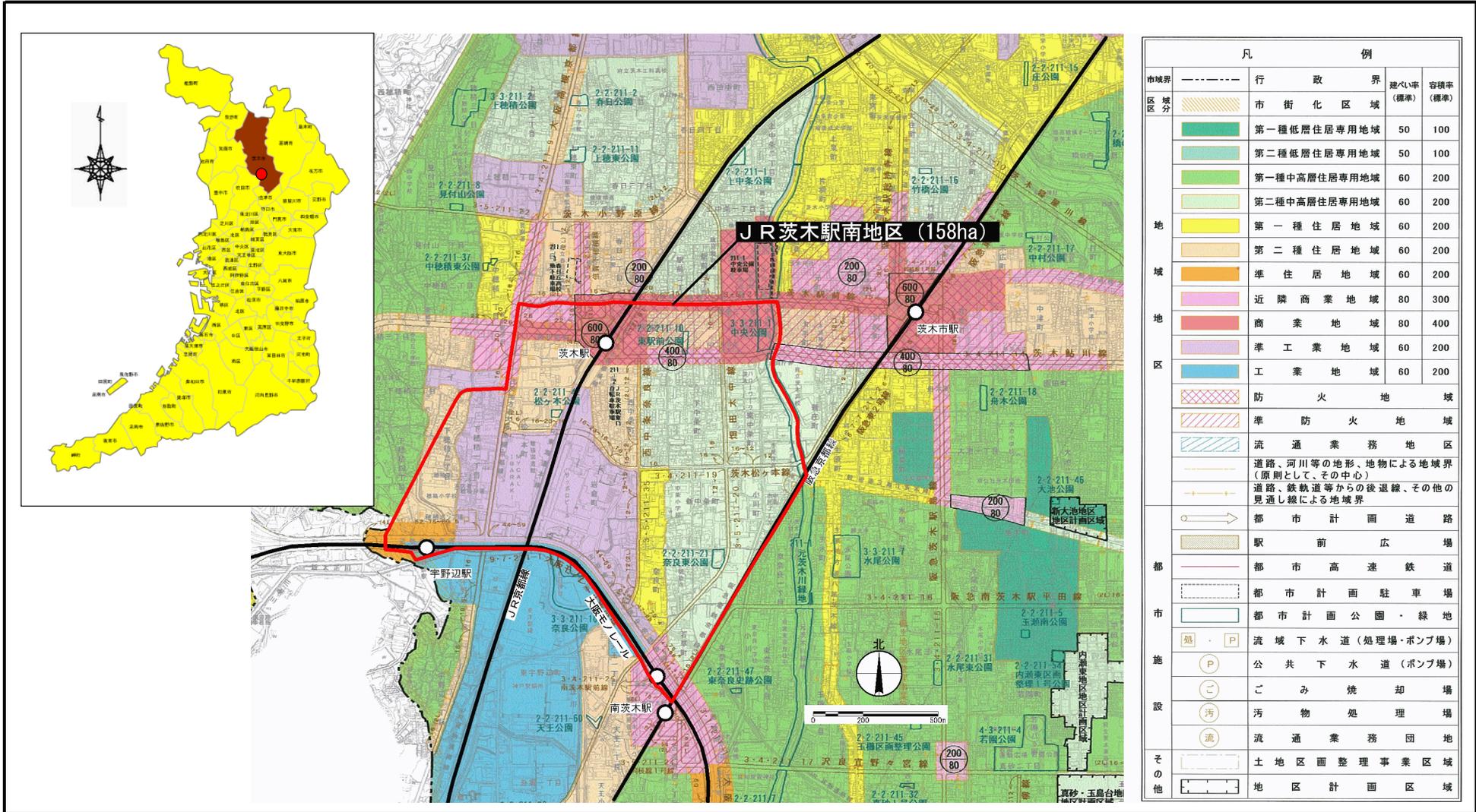
<p>目標</p> <p>大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出</p> <p>目標1: JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅の交通結節点の機能強化、両駅間の安全で快適に回遊できる歩行者・自転車ネットワークの充実</p> <p>目標2: 災害時の一次避難地や避難路を確保し、地域の防災性を向上</p> <p>目標3: 大規模工場跡地の整備インパクトを活用した、交流と学習のまちづくり拠点の整備</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体のリノベーション方針（都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む）</p> <p>本市では、昭和45年の大阪万国博覧会の開催後、約40年以上が経過しているが、JR茨木駅を中心とした中心市街地では駅前ビル等の閑散化や駅前広場等におけるバリアフリー化された歩行者動線が十分に確保されていないなど都市としての求心力が低下している。一方、近年、駅周辺の都市計画道路の整備が進んでいる中、大規模工場跡地に大学が平成27年4月に開校予定であることから、JR茨木駅と大阪モノレール宇野辺駅・南茨木駅及び阪急南茨木駅の交通結節点の機能強化や駅間を安全で快適に回遊できる歩行者・自転車ネットワークの充実を図る。又、当地区においては、高度経済成長期の急速な都市化の中で、住宅の量的供給がもたらされた時代に形成された木造住宅の密集した市街地であることから防災性の向上を図る必要があるため、災害時の避難地を確保する。大学進出を契機として、産官学民の連携による知的交流拠点の形成を目的とする。図書館や大小のホール及びコンベンションホール等を備えた施設の整備を行うことで、併せて都市機能の拡散防止と中心市街地の公共・公益サービス機能との連携強化を図る。公的不動産の活用策として、市有の遊休地を民間事業者売却し、生活機能を確保するとともに、今後、整備する市施設については、公共交通沿線に集約させることにより、都市機能の拡散の防止と公共不動産の有効活用を図る。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR茨木駅南地区は、茨木市中心部に位置し、JR茨木駅が約33百万人/年の乗降客数、大阪モノレール宇野辺駅が約2.5百万人/年という公共交通の利便性が非常に高い地域に位置する。 ・本地区では、駅周辺の交通渋滞問題等の懸案であった（都）茨木松ヶ本線及び（都）西中条奈良線の整備が推進され、さらに大規模工場跡地への大学のキャンパス等の土地利用転換が計画されている。 ・これらの状況を踏まえ、大規模工場跡地の大学キャンパス等への土地利用転換を契機とし、JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅周辺の都市基幹施設の整備と、一次避難地や避難路の整備による地域防災性の向上、産官学民が連携した賑わい・交流の拠点づくりを行い、ハードとソフトが一体となった魅力的なまちづくりを推進する。 <p>（経緯）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年3月 茨木市都市交通総合調査において茨木駅西口広場の改善方向、（都）西中条奈良線を優先整備路線に位置づける ・平成20年3月 茨木市交通環境向上施策検討調査においてJR茨木駅と大阪モノレール宇野辺駅との連絡についての問題点を整理 ・平成20年3月 サッポロビール工場が閉鎖 ・平成22年11月 立命館大学が新キャンパス計画を公表 <p>本市は、第4次茨木市総合計画（平成17年3月策定）や都市計画マスタープラン（平成19年6月策定）に基づき、中心市街地の機能回復、郊外への拡散の防止、公共交通の利用促進に取り組んできたところである。これまでの取組により、都市計画道路等の整備の実現や新たなバス路線の開通、また商店街連合会等とのまちづくりについてのワークショップ等の開催など新たなソフト事業が実現された。一方で、公共交通の社会実験、平成30年に開業予定である新駅設置、大規模工場跡地への大学進出やスマートコミュニティ構想などについて検討等を実施してきたところであり、今後、社会実験の成果を活用した駅前広場の整備や新駅設置による公共交通の恒久化、大学進出による地域との共生について事業化を具体的に進める段階にある。</p> <p>既成市街地外縁部においては、公共交通利用者の利便性を高めるために、バス新規路線の開通やバス停周辺の歩道整備、バリアフリー化などに取り組んできたところであるが、未整備の箇所も多く、一層の取組みが求められている。また、少子高齢化社会への進展、交通渋滞の緩和、環境負荷の低減等を踏まえ、望ましい都市・地域像の実現を図るため、交通事業とまちづくりが連携し、魅力と活力にあふれた都市づくりの実現に向けた方針、施策等を策定するための協議会を平成24年度に設立し、協議を重ねているところである。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学キャンパス整備に伴う学生等の来街者の大幅な増加に対して最寄り駅（JR茨木駅と大阪モノレール宇野辺駅）からの歩行者動線が不足している。 ・近接するJR茨木駅と大阪モノレール宇野辺駅間の歩行者空間やJR茨木駅の駅前広場などにおいて、バリアフリー化された歩行者・自転車の動線が十分に確保されていない。 ・大規模工場跡地周辺には、道路等が未整備のまま形成された住宅が密集した市街地が広がっており、都市レベルでの避難地や避難路整備等の防災性の向上が必要である。 ・市内に立地する複数の大学と連携し、市民の学習意欲を喚起し、大学と市民、企業との交流機会の創出を図るための拠点づくりが求められている。 ・自家用車を利用できない高齢者が日常生活に必要なサービスを受けることができるよう既成市街地外縁部における生活サービス機能の確保のほか、中心市街地に集約整備する公共・公益サービスに公共交通を利用してアクセスしやすくなるよう、既成市街地外縁部及び中心市街地の双方において駅・バス停周辺の環境整備を一層推進する必要がある。 ・近畿自動車道及び府道大阪中央環状線については、地域を分断しているとともに、高架下においては、薄暗く、ゴミが散乱しており、劣悪な環境・状況にある。 <p>将来ビジョン（中長期）</p> <p>【総合計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4次茨木総合計画（平成17年3月策定）において、JR茨木駅周辺の商業・業務機能の維持・増進に努め、途中下車したくなりような魅力ある商業地としての環境整備、自動車交通の流れを見直し、輻輳する交通の整序とこれにより生まれる空間を歩行者、自転車の利用に供するなどして、人にやさしいまちづくりにつながるよう必要な条件整理、老朽化した木造住宅の防災安全性の向上などを進めることとしている。 ・都市計画マスタープラン（平成19年6月改定）において、本地区を含む中心地域は、多様な都市機能の維持・増進を図り、都市の活力と魅力の向上につなげていくことが必要な地域であり、市民生活を支える①中心市街地の活性化や②良質な住宅・住宅地の保全・整備、③工場等の生産機能の維持を図るなど、多様な都市機能を維持・増進するまちづくりを推進するとともに、それらの都市機能の集積や④公共交通の利便性向上を活かすため、⑤都心部に集中する自動車交通の適切な処理を進め、⑥歩いて暮らせるまちづくりをめざすとともに、⑦公園や緑地など身近な緑の保全・整備を推進していくとしている。 ・本地区の中心市街地ゾーンは、茨木市中心市街地活性化基本計画において、「人にやさしいまちづくり」を図るべき地区として、JR茨木駅周辺の商業・業務機能の維持・増進に努め、途中下車したくなりような魅力ある商業地としての環境整備を行うとともに、自動車交通の流れを見直し、輻輳する交通の整序とこれにより生まれる空間を歩行者、自転車の利用に供することや老朽化した木造住宅の防災安全性の向上などを進めることとしている。

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 歩行者・自転車ネットワークの構築 ・JR茨木駅から大学キャンパス、大阪モノレール宇野辺駅をつなぐ、快適で安全な歩行者・自転車動線を整備する。</p>	<p>市道岩倉町歩専1号線(道路) 市道西中条町1号線(道路) 案内サイン設置(地域生活基盤施設) 立体遊歩道整備(地域生活基盤施設) 市道岩倉町2号線道路整備(関連事業) (都)茨木松ヶ本線整備(関連事業) (都)茨木松ヶ本線南側自転車歩行者道整備(道路) (都)府道大阪中央環状線自転車歩行者道整備(道路) 人工地盤整備(地域生活基盤施設)</p>
<p>整備方針2 住宅が密集した市街地の防災性の向上 ・大規模工場跡地における防災公園の整備、避難路としての区画道路、(都)茨木松ヶ本線及び(都)西中条奈良線の整備により、周辺の住宅が密集した市街地の防災性を向上する。</p>	<p>情報板設置(地域生活基盤施設) 市道岩倉町2号線道路整備(関連事業) 防災公園整備事業(関連事業) (都)茨木松ヶ本線整備(関連事業) (都)西中条奈良線整備(関連事業) (都)茨木松ヶ本線南側自転車歩行者道設置(道路)</p>
<p>整備方針3 産官学民の連携による知的交流拠点の形成 ・大学のキャンパス整備をインパクトとし地域と共に創る開かれた知的交流拠点をめざし、市民の学習意欲を喚起し、市内大学や市内企業、市民等の交流機会を創出するために、市内大学と茨木市が連携し、共同運営する「(仮)産学交流センター」を整備する。 ・市内大学や市内企業等による各種研究会や情報の共有、セミナー開催や市民が利用できる生涯学習講座等が行える拠点として整備する。 ・近畿自動車道及び府道大阪中央環状線の高架下を活用し、にぎわいのある空間として整備する。</p>	<p>下水道整備(関連事業) 大学キャンパス整備(関連事業) 大学整備(地方都市リノベーション推進施設) 地域交流センター(高次都市施設) 高架下の有効利用(民間)</p>
<p>事業実施における特記事項</p>	
<p>【事業完了後も、市民、大学、企業、市等が連携して、まちづくり活動を継続して実施】 ・「(仮称)産官学民交流センター」において、継続的に産官学民が一体となったイベント等の開催により、地域の活性化を図る。 ・大学のオープンキャンパスや防災公園の大学と連携した積極的な活用を行い、大学施設及び公園の地域開放より、地域住民と学生等の交流を促進する。 ・まちの美化活動を協力・連携して実施する。</p> <p>【茨木市総合交通戦略の策定】 ・平成24年度より、交通事業者、警察、学識経験者、市民代表者等で構成された協議会を設立し、将来の少子高齢化等を見据えた市域全体の交通体系の見直し等を行い、交通戦略の策定に向け、協議中である。</p> <p>【JR茨木駅東口駅前広場整備】 ・昭和45年の大阪万国博覧会以後、約40年以上経過しており、駅前ビル等の閑散化やバリアフリーが十分確保されていないことから、平成24年度より再開発等を視野に入れた駅前広場の再整備に向け、基本構想の策定を始めている。</p> <p>【高架下利用】 ・近畿自動車道及び府道大阪中央環状線の高架下をNEXCO西日本・大阪府と連携し、有効活用を図る。 ・公共空間を活用し、地域の特性に応じたまちのにぎわい創出や道路交通環境の維持・向上を図る。 ・整備する施設として、各種教室・イベントスペース・農園(水耕栽培等)・駐車場等を整備する。</p> <p>【官民連携事業】 ※都市再生整備計画区域内で、道路占有特例、河川敷地占有、歩行者経路協定、都市利便増進協定を活用する場合には記載する。</p>	

都市再生整備計画の区域

JR茨木駅南地区(大阪府茨木市)	面積 158 ha	区域 西駅前町、駅前一丁目、駅前三丁目、西中条町、下中条町、東中条町、岩倉町、新中条町、小川町、奈良町、若草町の全部、下穂積一丁目、下穂積二丁目、松ヶ本町、宇野辺一丁目の一部
------------------	--------------	--



JR茨木駅南地区(大阪府茨木市) 整備方針概要図

目標	大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出	代表的な指標	・交通利便性の満足度 (％)	10.8 (H19年度) → 13.1 (H27年度)
	目標1: JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅の交通結節点の機能強化、両駅間の安全で快適に回遊できる歩行者・自転車ネットワークの充実		・防災機能の向上 (㎡/人)	0.0 (H22年度) → 2.0 (H26年度)
	目標2: 災害時の一次避難地や避難路を確保し、地域の防災性を向上		・産官学民交流センターの年間市民利用者数 (人/年)	0.0 (H22年度) → 3,000 (H27年度)
	目標3: 大規模工場跡地の整備インパクトを活用した、交流と学習のまちづくり拠点の整備			

